

公開シンポジウム報告

未来を切り拓く“生きる力”

女性だからこそ! 金融・保険・不動産

【開催日時】2025.11.1(土) 13:00～15:20 【開催場所】渋谷キャンパス 403 教室

下 田歌子記念女性総合研究所は、女性を中心とした若い世代に「金融リテラシー＝生きる力」という新しい視点を提示するとともに、金融に関する学びを通して、意思決定力や社会参画の力を醸成する意義を広く共有することを目的として、「未来を切り拓く“生きる力” 女性だからこそ! 金融・保険・不動産」と題する公開シンポジウムを開催いたしました。

第1部では、本学園の木島葉子理事長による特別講演に続き、高橋桂子教授および角本伸晃教授による報告が行われました。続いて、高橋教授が学生とともに訪問した金融

ミュージアム Otemachi における見学の様子を紹介する動画を上映し、学生が体験的に金融の仕組みを学ぶ取り組みを共有しました。第2部のパネルディスカッションでは、深澤晶久教授をコーディネーターに迎え、金融業、保険業、小売業に勤務する3名の卒業生が登壇し、社会人としての経験を通して、働く中で気づいたお金の使い方や価値観の変化、若い世代に求められる金融リテラシーについて、フロアからの質問も交えながら活発な意見交換が行われました。

当日は在学生をはじめ、卒業生にも多数ご参加いただき、盛会のうちに終了いたしました。

特別講演

まずは知ろう! 暮らしを豊かにする金融リテラシー

木島 葉子 (学校法人実践女子学園 理事長)

「経済って何?」「金融リテラシーは自分には関係ない」と感じている女性は少なくありません。しかしコーヒーを買う、押し活のグッズを購入するといった日常の行動も、いずれも立派な経済活動です。私たちは一人ひとりが日々の選択を通して経済を動かしている存在だと言えます。

暮らしを豊かにするためには、日々の収入と支出の管理も重要です。とりわけキャッシュレス化が進む今日、支出を意識的に見直すことは欠かせません。たとえば、毎日の何気ない少額の出費が積み重なり、気づかないうちに家計を圧迫してしまう「ラテマネー」と呼ばれるものがあります。割引だったからお得と思って購入したものの結局一度も使っていない買い物や、「残りわずか」という表示につられ必要性を十分に考えないまま衝動買いしてしまった経験がある方も多いのではないのでしょうか。また、ポイントは貯めるだけで使わなければ意味がなく、有効期限や最低利用ポイント数にも注意が必要です。サブスクリプションも毎月課金が続くため、定期的な見直しは不可欠です。

金融や経済、金融リテラシーを「難しいもの」として遠ざけるのではなく、まずは身近なところから一歩近づき、お金と上手に付き合っていくことが大切です。金融リテラシーを



高めることは、家計管理や将来設計を確実に実行できるようになるだけでなく、詐欺などのトラブルを防ぎ、経済的自立を実現することにもつながります。

金融に限らず、皆様には「とにかく実践してみる」、また「チームで実践」、つまり他者の意見も参考にすることで成果が大きくなるということを大切にしてほしいと思います。そして最終的にどうするかは、自分自身の生活に関わることとして「主体的」に責任をもって判断してください。

報告Ⅰ

金融リテラシー×昇進意欲

高橋 桂子

(所長・生活科学部 生活文化学科 教授)

知識調査では、「正しい」「間違っている」「わからない(Don't Know : DK)」の選択肢が用いられることが多いです。金融に関するリテラシーは、他分野のリテラシーと比較してDK率が高いことが知られています。先行研究の多くは、回答を「正答」か「それ以外(誤答・DK)」の二値に処理していますが、この処理方法が適切であるかどうかについては検討の余地があります。実際に、本調査において設問別・性別に「正答」「誤答」「DK」の分布を確認したところ、すべての項目で女性のDK率が男性より高いことが明らかになりました。このことから、既存研究で「女性の金融リテラシーは男性より低い」とされる背景には、誤答ではなくDKの高さが影響している可能性は否定できません。

DK 選択理由について女子大学生を対象にヒアリングを行ったところ、「わからない」「誤答を避けるため」といった、いわゆる自信の欠如や努力の最小限化に起因する理由に加



え、「十分に考えた結果として、正答か誤答かを判断できないためDKを選択する」という新たな回答が得られました。これは、一般に想定されている回答行動とは異なるものです。

仮に、この説明が事実であるとしても、卒業後に社会人としてキャリアを形成していく過程において、「熟慮したものの判断がつかないため意思決定を行わない」という対応は現実的ではありません。したがって、本結果は、金融リテラシー教育において「知識の有無」だけでなく、「不確実な状況下においても判断を下す力」を育成する必要性を示唆しているといえるでしょう。中等・高等教育段階において、未知の事柄に直面した際にも最終的な判断を自らの責任で行う姿勢と能力を育成することの重要性が示された、と考えています。

報告Ⅱ

資産形成と不動産

角本 伸晃 (兼務研究員・人間社会学部 ビジネス社会学科 教授)

資産形成では「消費」と「投資」の区別が重要です。簡単に表現すると、「消費」は、もの・ことを買って使うことによってその価値を無くすことで、「投資」は次期に新たな収益を生み出すもの・ことを買うこと、となります。さらに、「投資」では、①金融資産か償却資産か、②価格変動のサイクルの長さが自分に合っているか、③収益に対する税率はいくらか、

の区別も重要です。

では、不動産は「投資」でしょうか、それとも「消費」でしょうか。賃貸アパート・マンションは「消費」となります。持ち家は資産と思っている人は多いのですが、「消費」か「投資」かの区別を明確に意識している人は多くありません。持ち家は、自分で自分に賃貸している「投資」と捉えるとよいでしょう。ただし、建物は償却資産なので、いずれ価値はなくなり、耐用年数超過後は、土地のみの資産価値に等しくなります。

したがって、不動産で資産形成を行うのであれば、所有する不動産の価値を少なくとも維持することが欠かせません。すなわち、①近隣の地価、②代替エリアの地価、③人口動態(全国、居住自治体)、を時々モニタリングしてみましょう。不動産情報ライブラリ (<https://www.reinfolib.mlit.go.jp/>) では、地価公示・都道府県地価調査・取引価格・成約価格を地図上で見ることができます。不動産価値の下がりそうなエリアから早めに引っ越しをすることも選択肢の1つです。そのようなエリアは買い物や通院が不便になっていく可能性が高いので、年齢を重ねるほど生活もしづらくなります。



公開シンポジウム報告 パネルディスカッション 経験から語り合う、お金との向き合い方

コーディネーター 深澤 晶久 (兼務研究員・文学部 国文学科 教授)

卒業生たちは、学生時代、「お金」のことをどう考えていたのか、 社会人となり、そして家庭を持ち、考えは変化していったのか

社 会で活躍する先輩3人に、ありのままのマナーに関する考え方や、悩み、そして後輩たちに伝えたことを語っていただくパネルディスカッション「経験から語り合う、お金との向き合い方」を開催しました。

本学の学生が質素な考え方を有することは感じていましたが、その期待を遥かに超え、しかもこれからの時代を見据えたファイナンシャルプランニングを身に付けておられ

ることに正直驚きました。

高齢化社会がさらに加速する中で、パネリストの皆さんは、きっと「人生100年時代」を過ごすことでしょう。長期的視野に立った「金融リテラシー」の必要性を痛感した1時間でした。一方で、2050年責任世代の卒業生たちが、「今」をしっかりと楽しめる世の中を作ることが、私たち2020年責任世代なのだということを改めて胸に刻みました。

Report

【第2部】卒業生によるパネルディスカッション

(インタビュー) 人間社会学科 駒谷ゼミ3年

末廣 彩羽・佐々木 晴加・谷嶋 優・中島 由加里

第2部は、「経験から語り合う、お金との向き合い方」がテーマでした。コーディネーターの深澤教授の進行で、卒業生の井上永香さん・西村香穂さん・松田千生子さんが、社会人になってからのリアルなお金の使い方や、学生時代との金銭感覚の違いをパネルディスカッションで語ってくださいました。私たち駒谷真美教授のゼミ生の4名が、大学公認番組「JJラジオ1」の取材で、先輩方にインタビューしました。



井上 永香さん

シンポジウムでは、普段交わることのない業界の方のお話を聞くことができ、また学生の方々が真剣にお話を聞いてくれて、学生のうちからこんなにも金融に関して興味を持っていることに驚きました。後輩のみなさんには、とにかく大学生活を満喫してほしいです。また、何かのイベントにしても「最初から最後まで自分たちでやる」という思いが、自然に身につくことが女子大の良いところだと感じています。様々なことを考えて決断する練習を大学4年間で経験し、楽しい社会人生活を目指して頑張ってください。

西村 香穂さん

私たちの時よりも金融リテラシーを高めよう勉強する機会が多いと思うので、パネルディスカッションでの話が何かを始めるきっかけになったら嬉しいです。金融リテラシーや資産形成と聞くと難しく感じますが、後輩のみなさんには、堅苦しく考えずに毎月いくら貯金するか目標を立て、iDeCoやNISAなどのたくさんの選択肢を活用してほしいです。また、大学生は時間が味方してくれるので、今回の話をきっかけに資産形成と保険の二本立てで足元のリスクヘッジにも興味を持ってもらえたら嬉しいです。

松田 千生子さん

久しぶりに大学を訪れたことで自身の学生時代を懐かしく思い出しました。私は当時、お金について深く考えることはなく、「収支が成り立てばよい」という感覚で過ごしていましたが、皆さんが大学生のうちから金融リテラシーについて学びたいという意欲を持っていることに驚きました。後輩のみなさんには、ぜひ今の交流を深めて頂きたいです。AIに相談できる時代ではありますが、人の悩みは人に相談することで親交も深まると思うので、社会人になってからも積極的に交流を深めてほしいです。

普段卒業生の方とお話する機会が少ないので、今回のシンポジウムでは、就職・結婚・出産などのライフイベントを体験されながら、どのようにお金と付き合っているのかを具体的にうかがうことができ、本当に勉強になりました。

「未来を拓いた女性 下田歌子

—すべては岩村から始まった—」について



専任研究員・准教授 久保 貴子

2025年10月19日（月）岐阜県恵那市岩村町旧岩村振興事務所に「佐藤一斎学びのひろば」がグランドオープンした。同じ建物1階フロアには、「恵那市中央図書館岩村分室」が先駆けて開館している（10月13日（月・祝））。

「佐藤一斎学びのひろば」は「佐藤一斎と出逢える、対話する施設～一斎先生と対話し、現代に生きる教えを体感する～」という趣旨で開設された。「対話式コトバ診断 ISSAI」など最新映像技術を駆使し、視聴覚を刺激する体感型の施設である。一方で佐藤一斎の著作展示や、名言・格言が書かれたカードを持ち帰ることが出来るように館内各所に配置するなどの工夫もこらされている。「儒教」「儒学者」というと、現代人、特に若い人達には、親しみが持ちにくくなっているが、テクノロジーの粋を尽くした体験型の資料館は、この「最強の儒学者」とも評される佐藤一斎への関心を必ずや惹起するに違いない。

その広場の一角に「下田歌子常設展示場」が新設された。向い側には桜や菖蒲の博士として名高い「三好学」の常設展示場も配置している。岩村町は、これまで佐藤一斎、三好学、下田歌子を「岩村三先人」として顕彰してきたが、この開館を好機として、三好学と下田歌子もあわせて紹介されることになった。

本研究soでは、この開館記念の常設展示に加えて、特別企画展示「未来を拓いた女性 下田歌子—すべては岩村から始まった—」を開催した（2025年10月13日～2026年1月13日）。恵那市で開催され、今年で第23回を重ねた「下田歌子賞」表彰式の際に、研究所が展示協力を行ってきた縁もあり、今回の特別展示が実施されたのである。

下田歌子は嘉永七・安政元（1854）年8月岩村町（旧岩村藩）に三代続く儒学者家である平尾家に生まれている（幼名：鈺）。明治4（1871）年4月に上京する際、尾張、三河、美濃の国

境で詠んだのが、有名な「綾錦 着て帰らずば三国山 またふたたびは 越えじとぞ思ふ」の一首であった。下田歌子が、昭和11（1936）年10月に満82歳で逝去するまで、岩村にまさに「錦着て」帰ることが出来たのは生涯において、わずか3回にすぎない。その下田歌子が逝去して約90年後にこの学びの広場が開館したことになる。

学祖・下田歌子の残した功績は「女子教育」が重要な柱ではあるが、それにとどまるものではない。本展示では、下田歌子の多彩な活動を「女性教育者」「国文学者」「歌人」「社会事業福祉家」の4つの面から捉え、本学図書館と本研究所所蔵の貴重な関連資料を展示した。あわせて岩村歴史資料館蔵の拝領の紅白角大皿や、下田詠「松間紅葉」の和歌軸、下田歌子揮毫「巖邑小学校校歌（作詞）」の扁額なども展示した。ほかには、明治皇后美子（昭憲皇太后）から下賜された金蒔絵手箱、ご教育掛を務めた内親王（常宮・後の竹田宮妃、周宮・後の北白川宮妃）お二方との所縁を示す高輪御殿（学問所）の文箱や喜寿記念に贈られた短冊入、また寄附褒状（日本赤十字社、明治27・1894年）なども展示した。開館早々に多くの来訪者をお迎えし、熱心に展示を見入っておられることが印象的だった。

今後も下田歌子の「故郷」恵那市との連携の一環として、積極的に展示協力を行っていきたいと考えている。佐藤一斎を顕彰する活動を永く牽引され、このたびの開館へと導かれた実践女子学園岩村親善大使・同恵那市親善大使・客員研究員鈴木隆一氏をはじめ一斎塾の皆様方に敬意を表するとともに、展示準備段階からご高配をいただいた学園親善大使相原文氏、恵那市恵那教育委員会伊東将昭氏、遠山直美氏、ならびに客員研究員奥島尚樹氏に記して深甚の謝意を表します。

（KUBO Takako）



歴史叙述とその書物を見わたすための視座

兼務研究員・文学部 国文学科 教授 大橋 直義



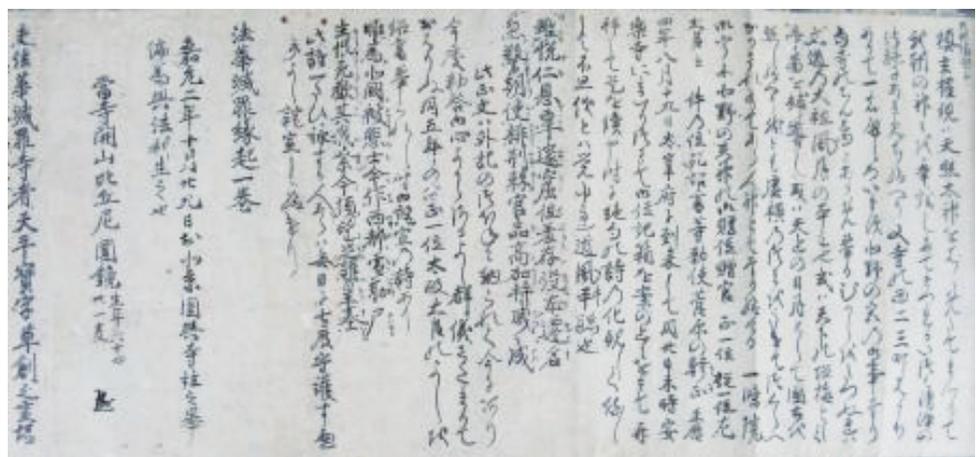
慶應義塾大学で過ごした学部学生・大学院生時代以来、日本中世文学（院政期～江戸時代初期）について、書誌学的・文献学的観点から研究を続けてきた。「書誌学」とは、書物の内外に記載された情報はもとより、書物そのものの形態や材料、装飾、筆跡、そして本文テキストの有り様から、その書物の生成と伝来・移動の過程を明らかにする方法である。「文献学」とは、(多様な定義が存在するが) 書物等に記されたテキストの原拠と引用／被引用の関係、つまり生成・変転の状況を他との比較によって析出し、その動態を記述する方法である。学部学生時代は、当時、進展の極めて著しかった『平家物語』、幸若舞曲など中世芸能とその書物の研究を志していたが、修士課程の頃から、寺社の空間や人の歴史叙述である寺社縁起・血脈などに関心が広がり始めた。後の研究活動の一つの核となった南都の巡礼記に関心を持ち始めたのもこの時期だった。「巡礼」とは、歴史が物語として立ち上がる場をめぐり、そこに結び付こうとするための人類普遍の営みであるが、貴顕による巡礼の記は、その営為そのものが歴史叙述の対象となり、その記録は「古典」として享受されるに至る。この間の調査と考証を整理したものが、拙著『転形期の歴史叙述—縁起巡礼、その空間と物語』(慶應義塾大学出版会、2010)である。

私の研究の大きな転機となったのが、和歌山大学に勤務した2012年からの9年間である。とりわけ2014年度から大学附置研の一つ、紀州経済史文化史研究所の活動に関わる中で、学内の歴史学・地理学・経済史学・民俗学の研究者や、県立博物館の学芸員諸氏との学問的交流の機会を得たことが、現在に至るまでの(そしておそらく今後にも繋がる)研究への基礎——書物研究に立脚した総合的言語文化史学という視座の獲得に繋がった。書物とは、図書館・特殊文庫などに蔵される現在のありかたが本来ではなく、

それぞれの歴史的な脈や他の文化財(埋蔵文化財・建築・絵画・彫刻等)との関係性のなかで固有の意味・機能を担われてきたものである。したがって、書物は、書物史・文学史・国語史的観点からのみならず、その書物を所蔵する寺社・家や当該地域に所在する文化財を俯瞰的に見わたすなかで位置づけられねばならないのである。

このような視座のもと、今年度は次の二つの書物について研究を行った。一つは、長年の懸案であった、道成寺蔵『道成寺縁起』(重要文化財)と『日高川草紙絵』と呼ばれる物語草子絵巻との関係について。詳細は近時刊行された『実践国文学』108号(2025年10月)掲載の拙稿『道成寺縁起』および日高川草紙絵と〔応永七年奥書本〕を参照されたい。なお、2026年6月に本学渋谷キャンパスで開催される説話文学学会大会シンポジウム「縁起・由緒の生成と機能—絵と詞と地域史—」で私も登壇し、『道成寺縁起』の生成過程について、当面の結論を示そうと思っている。もう一つは、大和国の尼寺、法華寺の縁起である『法華滅罪寺縁起』について。10年程前に私の手元に来てくれた、東大寺龍松院公慶旧蔵〔室町時代後期〕写の一軸を検討することを通じて、光明皇后が創建した法華寺が平安時代後期頃の衰亡の中からいかにして復興を遂げたのか、その物語がどのように理解されていたのかを検討した。2025年9月に仏教文学学会大会で口頭報告を行い、『実践国文学』110号への掲載を目指して、現在執筆中である。

(OOHASHI Naoyoshi)



〔室町時代後期〕写『法華滅罪寺縁起』一軸 (一ノ橋文庫蔵、東大寺龍松院公慶上人旧蔵)

都市経済学から観光経済学へ

兼務研究員・人間社会学部 ビジネス社会学科 教授 角本 伸晃



私の現在の専門分野は都市・地域・不動産・観光経済学としています。このような広がりになるのは、経済学の分野間の垣根がそれほど高くないこともあります。それらは隣接しているからです。最初の出発点は、大学の法学部で不動産法を学びましたが、制定法や判例を学ぶことよりも選択科目の経済原論に肌が合うように感じたので、大学院では経済学研究科に進みました。そこでは住宅立地論を中心とした都市経済学を研究し、経済学博士（中央大学）を取得しました。しかし、都市経済学は日本ではまだ若い分野だったので、大学の教員として就職できるような講座はほとんど存在していませんでした。そのため、教養の経済学を担当することで、法学部の大学に就職しました。それからまもなくして第2次ベビーブーマーが大学進学期にさしかかり、新設大学・学部が増え始め、その中で都市や地域の社会科学系学部も開設され始めたので、地域経営学科の大学に移りました。そこでは地域経済学系の科目をいくつか担当したので、研究領域を地域経済学に広げました。観光地を持つ地域を対象とした地域経済学の論文もこの頃書き、日本観光学会にも入会しました。今から思うと、これが観光経済学に研究領域が広がる端緒でした。一方で、都市経済学研究では、リアル・オプションを取り入れた住宅立地の論文に出会いました。その後、都市経済学を担当できる大学に移り、これをベースに都市再開発の時期や土地政策に関する研究をしました。2010年には、それまでの研究をま

とめた『都市と不動産の経済分析』（成文堂）を出版しました。

観光経済学はまだ独自のパラダイムがあるわけではなく、観光を対象とした経済分析といった感があるので、都市経済学や地域経済学の知見を適用した観光論文も書いていました。2011年にそれらをまとめて、『観光による地域活性化の経済分析』（成文堂）を出版しました。このころはまだ観光経済学ではなく「論」ではないかという人もいたので、2015年に観光学術学会で「観光経済学の方法論・研究成果」『観光学評論』Vol.3-2を發表しました。その後、2016年に実践女子大学に移り、研究の主な軸足は都市経済学から観光経済学に移っています。

最近の研究は、コロナ禍の終息によって訪日外国人が急激に増え、日本でもオーバーツーリズムが問題となってきたので、共著の『観光経済論（観光学全集第5巻）』（2025年、原書房：麻生憲一編著）の第9章に「観光と持続可能性—オーバーツーリズムを中心として—」を執筆しました。基本的な理論ベースは「外部不経済」ですが、対策の面では行動経済学的な視点を取り入れました。また、観光は大地震や台風などの災害による影響を大きく受けるので、令和6年能登半島地震による風評被害の経済分析や、被災観光地の観光客を早期に回復させるための政策手法の経済分析、そして科研の課題である観光における食品ロスとその対策についても研究しています。

(KADOMOTO Nobuteru)



研究著書



2025年度
実践女子大学
下田歌子記念
女性総合研究所
研究員

(五十音順)



所 長

高橋 桂子(生活文化学科 教授)

専任研究員

久保 貴子(准教授)

兼務研究員

大川 知子(環境デザイン学科 教授)

大橋 直義(国文学科 教授)

織田 涼子(美学美術史学科 准教授)

角本 伸晃(ビジネス社会学科 教授)

駒谷 真美(人間社会学科 教授)

佐藤 幸子(食生活科学科 教授)

志渡 岡理恵(英文学科 教授)

標葉 靖子(社会デザイン学科 教授)

須賀由紀子(現代生活学科 教授)

高橋 美和(人間社会学科 教授)

田中 正浩(生活文化学科 教授)

広井多鶴子(人間社会学科 教授)

深澤 晶久(国文学科 教授)

村上まどか(英文学科 教授)

客員研究員

愛甲 晴美(福生市郷土資料室)

奥島 尚樹(元実践女子学園職員)

神木まなみ(大正大学 教学マネジメント推進機構
学修支援センター(DAC) コアチューター)

牛腸ヒロミ(実践女子大学 名誉教授)

鈴木 隆一(実践女子学園岩村親善大使)

関 登美子(元実践女子大学非常勤講師・
元実践女子学園中学校高等学校教諭)

眞有 澄香(帝京大学大学院教職研究科 教授)

松田 純子(実践女子大学 名誉教授)

若森 慶隆(NPO法人いわむら一斎塾)

2025年度の活動

創立記念日企画展示

2025年4月25日(金)～5月9日(金)

日野キャンパス 香雪記念館1階

図書館合同企画展示

「未来を拓いた女性 学祖下田歌子」

2025年8月7日(木)～10月8日(水)

実践女子大学図書館(日野キャンパス)

「佐藤一斎學びのひろば」オープニング特別企画展示

「未来を拓いた女性 下田歌子

—すべては岩村から始まった—

2025年10月13日(月)～2026年1月13日(火)

佐藤一斎學びのひろば 特別展示室(岐阜県恵那市)

公開シンポジウム開催

「未来を切り拓く“生きる力”

女性だからこそ!金融・保険・不動産」

2025年11月1日(土)

実践女子大学渋谷キャンパス創立120周年記念館403教室



図書館合同企画展示



資料展示「佐藤一斎學びのひろば」
オープニング特別企画展示

常磐祭・展示

第69回日野キャンパス
常磐祭「Enchanté」

2025年11月8日(土)、9日(日)

資料展示(常磐祭)

日野キャンパス本館449・450教室

● 学園資料展示 ● グループ研究紹介・報告・展示

「第22回 下田歌子賞」表彰式(協力事業)

2025年12月20日(土) 恵那文化センター(岐阜県恵那市)

● 学園資料展示など

新編下田歌子著作集『よもぎむぐら 下』刊行

校注 久保 貴子(風間書房、2026年2月刊行予定)

今年度は研究会を7回開催いたしました。詳細につきましては、本研究所HPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

下田歌子記念女性総合研究所 HP

本研究所HPでは、「活動報告」「研究員便り」等を中心に、研究所の様々な取り組みを広く内外に発信しています。その他、定期刊行物の紹介、研究所主催のシンポジウムや展示の予定等も随時更新してまいりますので、どうぞご利用下さい。

詳細はこちら
<https://www.jissen.ac.jp/shimoda/index.html>

